

医療・薬学連携で研究室

岐阜薬科大が大垣市民病院に設置

ビッグデータ活用、臨床教育

岐阜薬科大（岐阜市大学西）は26日、大垣市民病院（大垣市南畑町）にサテライト研究室である「医療連携薬学研究室」を設置した。病院と連携して、学生の臨床教育や研究活動を充実させるほか、病院薬剤師の学位取得や研究活動をサポートする。

（武藤直子）

研究室は、1病棟1階の薬剤部に設置。大学教員のほか、同病院薬剤部の宇佐美英績部長が特任教授となって指導する。科長や科長補佐ら5人の病院薬剤師も客員共同研究員として、学生の指導に当たる。学生は、

いずれも県内最多という817の病床と62人の薬剤師を有する同病院のビッグデータを活用し、臨床現場を見ながら、薬学研究に取り組める。

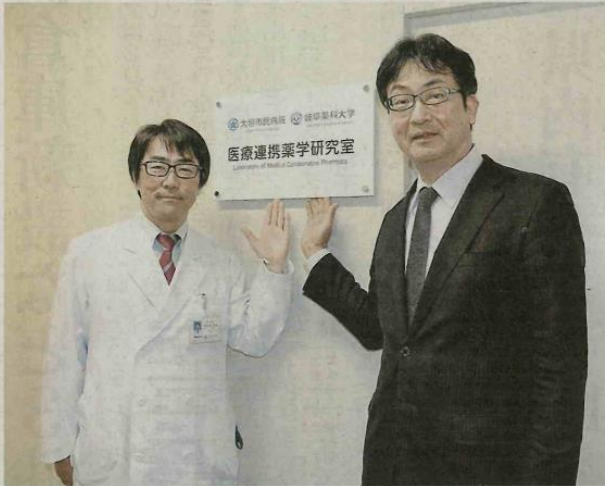
説明会で、宇佐美部長は「62人の薬剤師のうち、博

士号取得者8人、がん専門薬剤師11人など専門性の高さが当病院の特徴」と述べ、「より質の高い臨床研究データや論文の発表にもつながるし、病院薬剤師の魅力も貢献していきたい」と語り、

「第一線で活躍する病院薬剤師を育成したい。学会や研究会を共同開催するなどして、地域や医療界にも貢献していきたい」と語り、

「機会になる」と期待を込めた。同大の吉村知哲教授は「第一線で活躍する病院薬剤師を育成したい。学会や研究会を共同開催するなどして、地域や医療界にも貢献していきたい」と語り、

岐阜薬科大の学外における研究室の設置は、3例目。昨年4月に岐阜大病院（岐阜市柳戸）と岐阜市民病院（同市鹿島町）に、それぞれ設置している。



設置された「医療連携薬学研究室」の前に立つ吉村知哲教授（右）と宇佐美英績薬剤部長＝大垣市南畑町、市民病院